

報道関係者各位

医療・介護の現場に、多職種連携の危険予知教育プログラム 「思考スキームに基づいた危険予知研修」を —日本社会事業大学と知識環境研究会が産学連携で開発—

平成26年1月28日

一般社団法人知識環境研究会
日本社会事業大学 佐々木由恵研究室

一般社団法人知識環境研究会（東京都千代田区）は、日本社会事業大学（東京都清瀬市）佐々木由恵研究室と共同して、医療・介護の現場で必要となる、多職種連携における危険予知のスキルを育成する教育プログラム「思考スキームに基づいた危険予知研修」を開発しました。

今後、法人向け・個人向け研修サービスとして医療・介護の現場に普及させ、多職種連携によって起きる危険やリスクの低減を目指します。同時に、本研修のeラーニングサービスも提供を開始します。

■ 「思考スキームに基づいた危険予知研修」の特徴

職種や個人の背景知識・経験の違いによって生じる「思考スキーム」の差に着目し、異なる職種のスタッフが協働する際に適切な危険予知を共有するスキルを育成する教育プログラムです。本研修は、メタ認知をはじめとした知識科学の研究成果と、日本社会事業大学の介護教育における蓄積を基に開発しました。

■ 今後の展開

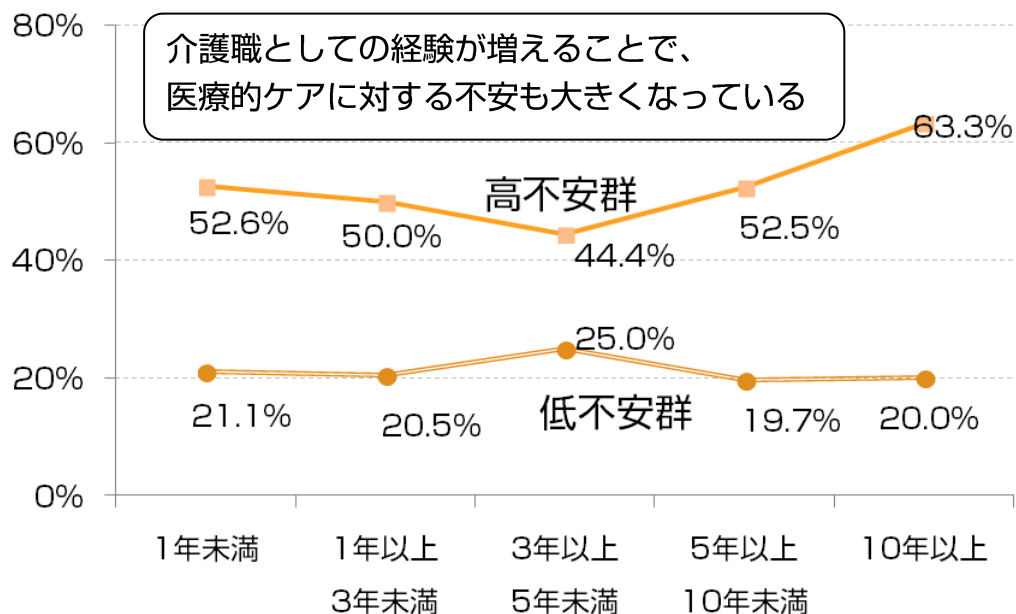
医療・介護現場をはじめ、多職種が協働するヒューマンサービスの現場で「危険やリスクを予知し、互いの専門性を尊重した協働を行う」スキルを養成することを目標に、「思考スキームに基づいた危険予知研修」の普及を進めます。対面の研修に加え、eラーニングでも研修サービスを提供します。

▶本プレスリリースに関するお問合せ先
一般社団法人知識環境研究会
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-11-22
第二神田ビル 13号
TEL：03 (3252) 2472 FAX：03-6779-4703
Email：info@ackk.or.jp <http://www.ackk.or.jp>

参考資料

1. 医療と介護の連携強化で高まる「多職種連携」「危険予知」へのニーズ

要介護高齢者人口の急激な増加に伴い、医療的ケアなど、医療と介護の連携はますます緊密化しています。医療と介護はもはや一体化した現場となりつつあり、そこでは多種多様な専門職が協働しています。佐々木研究室と知識環境研究会が実施した調査（2010年、2011年）によると、介護職と医療職の連携は密接で、医療的なケアを行う場面が増えている介護職の多くが不安を抱えていることが明らかになっています。



図：介護職経験年数と医療的ケアに対する不安の変化

このような不安の背景には、個人の経験や職種による専門性が生み出す「思考の枠組み（＝思考スキーム）」の差が引き起こすコミュニケーションギャップにあると考えられます。

互いの思考スキームに配慮したコミュニケーションを通じて危険予知のスキルを向上させる「思考スキームに基づいた危険予知研修」の普及と、その指導者の養成が急務となっています。

2. 「思考スキームに基づいた危険予知研修」の特徴

思考スキームに基づいた危険予知研修で用いる教材は、医療・介護の現場で起こる出来事を題材にしています。その出来事への対処を「事実」「根拠」「行動」に整理して記入し、他者と共有することによって、自己の行動の背景にある思考スキームに気付くことができます。自己と他者の思考スキームを比べることによって、共通点や違いが明確

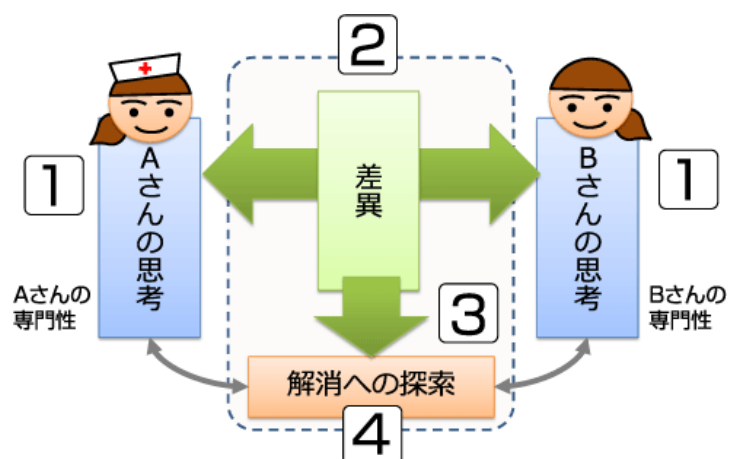
になり、他者との連携がスムーズになります。この教育プログラムは、知識科学やメタ認知研究の成果を応用したものです。

思考スキームに基づいた危険予知研修は、eラーニングでも提供可能です。各職場で手軽に危険予知の研修を行うことを支援するサービスを提供します。

3. 「思考スキームに基づいた危険予知研修」で何が育成できるか

この研修を受けることによって、各職種が互いの専門性を尊重しながら、着実に協働することができるようになります。医療・介護が連携する現場では必ず学ぶべきスキルです。思考スキームに基づいた危険予知研修は、以下の4点を促す教育方法です。

1. 自己の思考スキームの意図的な把握と表出
2. 互いの専門職の思考スキームの比較対照と理解
3. 自他の思考スキームの違いの理解と原因推測
4. 思考スキームの違いを踏まえた現場の改善活動への動機づけ



図：思考スキームに基づいた危険予知研修の設計理念
※図中の数字は教育方法の意図の番号と対応

4. 「思考スキームに基づいた危険予知研修」開催の様子



図：千葉市社会福祉協議会での研修の様子
(左：レクチャーの様子、右：ディスカッションの様子)

5. 「思考スキームに基づいた危険予知研修」教材の一部（動画）



図：動画教材（左：事例「多人数の前での吐しゃ」 右：事例「腸ガス排気」）

6. 「思考スキームに基づいた危険予知研修」教材の一部（学習シート）



図：研修で用いる学習シート

7. 「思考スキームに基づいた危険予知研修」受講生の声

本研修の受講生の声を一部紹介します。

- 普段の業務上の振り返りではじっくり考える時間がないが、事例について皆で検討できて良かった（30代女性、看護師）
- 自分の思考の癖に気付き、相手の思考との違いを意識するようになった。介護の記録がわかりやすいと言われるようになった（20代男性、介護福祉士）
- チーム医療には情報共有だけでなく考え方の共有が重要。昔は飲みニケーションで行っていたようなことを疑似的かつ効果的に再現できる（50代男性、医師）

8. 今後の展開

本研修は、医療・介護連携現場における危険・リスク予防のための協働スキルの向上を促すものです。今後、修了生の継続訓練を進め、「連携危険予知スペシャリスト（仮）」の育成と資格の創成を行います。医療・介護連携現場をはじめ、多職種が連携する必要があるヒューマンサービスの現場に「連携危険予知スペシャリスト（仮）」を育成することを目指します。

9. 組織の概要

(1) 一般社団法人知識環境研究会

一般社団法人知識環境研究会（代表理事 神山資将）は、2000年に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生が中心となって設立したシンクタンクです。知識科学、科学技術政策などをテーマに研究調査活動を行っています。国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科をはじめ、大学等との連携も活発に行っています。

(2) 日本社会事業大学

日本社会事業大学は、1946年の創設以来、厚生労働省の委託を受けた唯一の大学として「指導的社会福祉従事者の養成」と「社会福祉教育に関する研究」を担い、将来の社会福祉リーダーとなる人材の養成を目標にした教育を実践しています。佐々木由恵教授を代表とする佐々木研究室では、指導的な介護職の教育とともに介護職のキャリア形成に関する調査研究を行っています。

▶本プレスリリースに関するお問合せ先

一般社団法人知識環境研究会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-11-22
第二神田ビル 13号

TEL : 03 (3252) 2472 FAX : 03-6779-4703

Email : info@ackk.or.jp <http://www.ackk.or.jp>